憲法・くらし守る 新しい政治へ 力あわせます

安倍内閣を追及＝2014年10月８日、予算委

安倍暴走に待った

戦争法阻止の先頭に

自民・公明が戦争法を強行した深夜の参議院本会議で、強行採決した安保法制特別委員長の問責決議に賛成討論。迫力に与党席も静まり返りました。

中国「脅威論」崩す

自民党が戦争法の「根拠」にした中国の「脅威」。日中間の密接な経済関係を示した質問に外相は「政府は中国を脅威とみなしていない」と答弁。

アベノミクス追及

暮らしを壊すアベノミクスをいち早く追及（2013年2月）。「大胆な金融緩和」の危険性、貧困と格差をいっそう広げることを先見的に指摘しました。

消費税増税やめよ

富裕層ほど税率が低くなるというデータを国会で示して話題に。日本経済再生の道を示しながら、景気を冷え込ませる消費税増税やめよと主張。

「国民連合政府」をつくろう

日本共産党

参議院議員

大門みきし

大門さんは参議院議員3期目。15年間で歴代9内閣と対峙。論戦力・行動力は抜群。特に経済論戦には定評があります。安倍暴走政治に対決するとともに、政治を具体的に動かしてきました。党参議院国対副委員長。参議院議員団の要。党の躍進、国民と手を携える活動の先頭に立っています。近畿の力で必ず国会に押し上げましょう。

プロフィール

1956年京都市生まれ。神戸大中退。本家は大阪の造り酒屋。建設労働運動を経て参議院議員に。予算委員、財政金融委員。党中央委員。家族は妻と二男。

論戦力 マスコミ太鼓判

「経済の切り札」

雑誌「ＡＥＲＡ」が「経済に関する切り札は共産党の大門実紀史議員」（09年８月）と紹介。

すぐれた国会論戦をした議員に贈られる朝日新聞の賞（「敢闘賞」）を受賞（09年）。

他党も一目

「議場が、大門議員の味方になってしまう」と元閣僚。

「私は大門先生の影響を受けている」と発言した議員に、大臣が「私も大門先生の話に引き込まれないように注意している」と答弁し爆笑。

行動力 つねに現場へ

福島からの避難者に聞き取りする大門さん（中央）

ただちに被災地へ

モットーは現場主義。東日本大震災の翌日、被災地入り。避難所を回り、要望を聞いて物資、照明などを手配。

個別相談1000件

「困っている人を救うことは議員の仕事」と個別相談は1000件以上。

実績 政治動かす

- 中小企業支援とセットでの最低賃金の大幅引き上げが景気対策のカギと提起。安倍首相が「重要な指摘。研究する」と答弁（13年）
- 安倍首相にカジノ議連最高顧問を辞任させる（14年）
- 一緒に働く家族の給与が必要経費と認められない所得税法56条廃止の検討を約束させる（09年）

近畿を駆ける

これまでは東日本で活動してきた大門さん。参議院議員を勇退する市田忠義副委員長の後を受け、近畿に活動の舞台を移し、精力的に駆け回っています。

兵庫 青年の未来まもろう

大阪 維新政治ノー「都構想」ストップ

京都 丹後・米軍レーダー基地を調査

滋賀 自衛隊銃弾事故で防衛省に要請

奈良 「海外で戦争する国」許さない

和歌山 マイナンバー制度中止・凍結を訴え

「弱い人の味方やね」

（「母を語る」より）

母は女手ひとつで、四人の男の子を育てあげました。昼間は京都西九条のスーパーで、夜は先斗町の料亭で働きました。

末っ子で甘えん坊の私は母に会いたくて、夕暮れ時の鴨川ぞいを一時間ほど歩いて、料亭の前まで行きました。母は表に出てきて「よく来たね」と笑って頭をなで、電車賃を握らせました。「一緒に帰ろう」というと、つよく抱きしめてくれました。

あるとき母は、大企業に就職した兄より、共産党の活動をしている私をほめてくれました。「みきしは弱い人の味方やね」と。

なぜ共産党に入ったのかを思うとき、身を削って働いた母の姿が浮かびます。社会が、政治が、母のような女性をもっと助けてあげてほしかった。そういう政治にしなければと思いました。

今でも、夕暮れの街を歩いていると、ふと母と会うためどこかに向かっているような気がすることがあります。今度は私がつよく抱きしめてあげようと思いながら。